広島県政白書懇談会　参加者からの発言概要　　2020年12月12日

**1.県政白書の取組みに総括と反省について**

・提案内容は、やめようか、作るお金がないのでどうしようか、というものなのか。

・今まで作ったけれど、どう普及するのか明らかにされていない、出したというだけで満足なのか。

・今まではどうだったのいうことより、作る意義があるが、どうつなぐかではないか。

・学習会をやってつなぐことが出来ていない

・選挙パンフには活用されてはいた。

・県政白書の歴史はどうなのか、当初の2冊は県職員が発意して作って自己研修を行っているが、飛んでこの最近の8年前からは県の民主団体からの意見をまとめたものになっている。

・選挙民の視線で毎回の選挙の性格を明らかにしている。

・作るか、どうかの提起されているが、

・一般県民には県政が見えにくい面がある、すでに政令市、中核市などがありそれぞれの自治体で、くらしに関する事項はやられている。

・今までは県政白書を各団体に買ってもらって600部印刷している。しかし、各団体では読まれていないのではないか。

**2.今の情勢の課題について**

**①湯崎県政批判**

・提案の情勢にもかかわらず、湯崎県政は「ひろしまビジョン」を発表したが、これには酷評が発せられており、湯崎知事に今後の県政をゆだねることはできない。

・県が主導的な役割を果そうとしている水道事業の民間事業者への県単独化問題など、広域化の課題は大きいことで、これに対するまとめが必要だ。

・広島県は今回、国際課題として「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」17の課題に対応した取りまとめ方をしているが、これに対する意見が必要ではないか。得意分野ではないがまとめられていれば役立つのだが、国政の問題ではあるが県政に置き換えて行うことも、実行委員会団体に検討をお願いすることが必要ではないか。

・湯崎さん就任後の3期12年間、湯崎県政は現実から遊離した課題を宣伝していくやり方、一部の元気な点のみを強調して、周りが沈んでいる現実に目を配らないので、全体が沈んでいく方針だったと言えるのではないでしょうか。国の骨太方針の2年前に、広島県が出しているイノベーションという言葉には、破壊する面があると指摘しており、イノベーションの実施で周りを吹き飛ばすことに注意を喚起していました。湯崎さんは夢物語を語って破壊をしてきたのです。

・ひろしまビジョンでは、適散・適集社会と語っていますが、これは何なのか。今後の骨太方針の先取りの言葉になっているのでしょう。

・広島県の医療過疎にたいし、ヘリコプターで行けるからとか、高速道路があるからとかと言って、住民の声を放置しています。いいのでしょうか。

・今日の地域間格差は、平成の大合併から加速化され、今までの合併と違って質の違いが出ており、３次格差を生んでいる。また切り捨てられた学校、コミュニティーが壊されているが、どこに住んでも県が保障する手立てはどうなっているのか。

・ひろしまビジョンでは、広島県土のアンバランスがあり、クマが出ている地域、これらの課題の対策が延べられるものがない、鳥獣害の実態を個別運動体から抑えないと見れないものがあり、一堂に出すことが必要ではないか

・「ひろしまビジョン」から、湯崎さんの夢が何を見ているのかわからないが、今回のコロナ関連した特別生活資金問題で、彼から県職員へカンパをするようにと言ってすぐ取り消したことがあるが、首長として夢がないのではないか。

**教育課題**

・小学校統合再編の結果、学校設置基準の変化が出ており、子どもの生育に大きな影響を生んでいる。まずは体力の低下が進み、遊ばない子どもが出てきているのです。バス・車通学でドアツウドアになっており、保護者から、バス停を遠くに広げて歩かせろとの声が出ている。また、キャッチャーが出来ない体になっているのは、トイレ便器が和式から洋式に変化し足腰が鍛えられていないのです。タワーマンションの増加で、子どもの生活環境が横移動のみで、外で遊ばない原因になっている、また上階と下階の購買価格の格差が、子どもの社会の人間関係に影響を及ぼしている。

・県政白書編集時、文章の校正として、このような身近な話題を挙げていくなど工夫をしてほしい。

**平成の大合併問題**

・平成の大合併の総括が今必要ではないか、府中町議の二見さんの論文をよく読んでみたいものだ。小林さんの「平成の大合併」という本が出て10年経ち、その後の姿を検証すべきだ。県職員にとって市町数が87から23になり楽になったが、県民の細かい部分がつかめない、議員のいない地域からの声が県に届かないという現実が多く生まれている。

・国が出している2040構想など、広島からアンチテーゼや市町村合併の域間格差の実態問題など、日本での先進地として、これに答えを出していきたい。また、広島・福山で広域連携協定が作られているが、中心部のみ発展して、周辺の地域の衰退がおろそかになっていない検証する必要がある。権限移譲など県から市町負担が増えていったが、コロナ問題で市町が動けない理由になっているのではないでしょうか。

・コロナ問題について、個別市町に解決を任せないで、広島県政としてどう対処するか論じること。

**災害対策**

・最近広島県では大災害が起きており、災害対応で広島県がどうだったのか整理理検討しているが、第2次案も出てが、そこには反省が出されていない。それに今後の防災体制は全くない、災害対策に予算を使っているが、危険個所の多さに追いつかない額であり、これをどうするのか。300年が200年となっている。県民に犠牲が当然なのか。

**総選挙の情勢**

・2021年10月までには総選挙、参議院の広島選挙区の補欠選挙があり、同一選挙になるかもしれない。また河井の連座制の確定により時期が早まるかもしれない。

・県政白書として検討するにあたって、学校の統廃合、国保の県単位化問題、無医地区の問題(宮島は夜間医者がおらず修学旅行生は泊まれない)。廿日市市の入島税　病院の統廃合では、日赤病院のあり方（三原市が貧弱な病院には支援しないと言っている）県のリビハビリセンターの統廃合など、具体的な声を掲げて説明しなければ理解できない。

・課題は一杯あるが、一直線に民主県政とのつながりは出て来ないが、多面的に有効に活用して理解を深めていく課題を明らかにすること。

・自治研は問題提起。資料提供、売りさばくので精いっぱいである。連携は運動団体の問題としてやっていこう。

**新たな課題**

・今安佐南区の**産廃問題**が新たな問題が出て、目に見える姿で問題化している。調整池に安定型といっているが問題があると、弁護士会でも批判されている。安定などしていない。最近行政がCOD・業者の能力検定など十分把握していないのが現実だ。

・産廃の検査は、保健所の点検業務ではないのか。この権限が広島市では産廃係の業務に任されている。安定型産廃の問題は全国で1000か所あり60か所が広島県にあり全国で4位であり大きな課題である。広島県には産廃税があったが、生きているのか。日本弁護士連合会も、２００７年に「このまま安定型処分場を放置するならば、不作為責任が生じかねない状況であり、もはや法令によって処分場の規制を行う権限を有する国が安定型処分場という類型をこのまま認めることは許されない状況に至っている」と、安定型産廃処分場が新規に許可されないよう求める意見書を提出しています。

・ごみ処理はきわどいことがあり、公務員の買収など県内では追っかけがない。このような課題での県の役割が点検される必要がある。

・今後広島県内の**産業の空洞化**が進むのではないだろうか。2019年で社会減が広島県が全国トップであるが、その理由が良く分からないのだ。大学を出た人が広島から出ていくとは。具体的に出してもらいたい。

・政府が奨める**マイナンバーの行政導入策**は、物事を短絡化させ、上がってくる行政に怖い面が生まれないだろうか。

・自然エネルギーの時代だが、風力発電の教訓の講演を聞く機会があったが、**鳥獣害防止**の原因が解かれた話の中で、山里に生れた彼らが里山に出没するような現象があるが、里山に人が住むことが必要であることを促しているのであり、彼らの生活環境の特異性が訴えている。東区は道路端太が鳥獣被害の巣になっており、猪との出会いがしょっちゅうある。神田山荘での朝の散歩など特にそうだ。

**県知事候補探し**

・歴代の県知事候補者の名前が挙がったが、県労連の委員長が代々出ていた。

・県政白書を印刷して作って保存が効くが、民主団体からの候補者の立候補者の為になる尚なら良いのだが、未だに候補者も出ていない。今の広島県には、広域行政の課題と、国民健康保険費の問題、産業政策など多くの課題がある。

・平和公園の管理が明確ではなく明かりが今回消されたがなぜだろう。

・県知事選は11月28日までには行われる。その前に総選挙と忙しい。

**県政白書作成の手順について**

・このような情勢の下で、県政の点検原稿はつくることが必要、印刷、出版はこれからの課題だがやることにしようではないか。

・4年毎の県の財政資料の作業をやりたい。行政資料のまとめを行うことが為になった。

・ 政策議論を今回作る実行委員会が提言する課題になるが、きちんと立ち上げてもらいたい。

・今回、県政白書として、自治研として出来ることとして、その内容について、今まで月報に掲載されている論文をまとめることで可能ではないか。

・近々、県のあり方、広域行政についてなどの本が出され、これに山田先生が投稿されており、先生の講義で学習することや、1月24日ひろしま自治体学校が開かれ、教育と・医療圏の２つの講座が予定されている。また県議の辻さんには県政総括など、お願いする段取りが3月以降出てくるだろう。

・実行委員会になぜ共産党が入っていないのか、政策のことであり政党をみんな呼べばいいではないか。

・実行委員会として、呼びかけ団体を確認して第1回をいつ行うか。自治労と県職が来ればいいのだが。

・4年に1回のやり方のスタイルを作ろうではないか。先の白書には備北地域の集まりなどがあるが、そこでの運動が総括することを促す役割を持っている、今回は呉の地域課題が出てくるだろう。

・県政白書は、運動の格好を作るのではない、課題の深堀が必要ではないか。

・1月24日ひろしま自治体学校がありますが、この日に実行委員会を開くのですか。

・実行委員会の会議は、自治労連、県労連・民医連・新婦人・全教広島・革新懇など主要団体が集まって協議をする場にしてほしい。

・スケジュールから

　　先般の白書作成には、執筆者の決定後は3か月が掛っている。月例スケジュールは前回の実務の実態です。

・今後、片手間にしないできちんと組織的に結成を行ってもらいたい、今後の課題の時大切です。

　実行委員会の構成団体として

　　平和委員会・県社保協・政党・地域的な方々・三次市政を考える会（10月の発足）を加えることと、団体の系列化して整理し執筆者との区分をしてほしい。

　自治研として第1回実行委員会を2月7日に開催したい、それに向けて準備をしたい。